

相手の都合を気遣う大人に

三月に卒業した生徒たちの中には、大人の対応ができる者がいました。ささいな言動の中に、相手の都合を気遣うことができる生徒がいました。中学生においては、一年と三年の体格差がずいぶんあるように、気遣いにおいても大きな違いがあるようです。

本校では、授業日に高校見学会や公式戦が組まれているときには、場をかえて学習するというので、校長の私に申請と報告をすることを条件に極力出席とするようにしています。昨年度は多くの三年生が高校見学会に参加したので、報告に来る生徒で校長室は大賑わいでした。

そんな時、業間のわずかな時間を利用して、校長室のドアをノックする生徒がいました。報告ではありません。報告に行きたいと思っっている日の昼休みの私の都合を尋ねに来たのです。

「○日の昼休みに、△高校の見学会の報告に行きたいと思っ
ていますが、校長先生のご都合はいかがですか。」

業間のわずかな時間では十分な報告はできません。次の授業にも影響が出てしまいます。しかし、都合を尋ねるぐらいだったらでできます。次の授業もおろそかにしない。自分の考えた時間
間に校長室を尋ねて私の都合を尋ねる。そして、報告日を自分で決める。まさに「主体性」が生み出した姿だと思いました。

私は、こういう生徒を頼もしく感じます。自分の都合を優先させるのではなく、相手の都合や立場を大切にして適切な行動をとることができる姿に大きな成長を感じます。中学時代は、こういう成長が著しい時です。良いタイミングで、適切に指導すれば、相手の都合を考慮して行動することの大切さを理解できるようになると思います。

本日、ある一年生徒と校舎内で出会った折、その生徒が私に尋ねてきました。

「校長先生、いつ報告に行ったらいいですか。」

報告に行かなければならないことをしっかり覚えていたことには安心しました。具体的な日時を私が示せば、この生徒は確実に私のもとに報告にやってくることでしよう。この生徒の誠実さが短い言葉から感じられました。一年生としては十分合格です。

ここからさらに成長することを期待します。相手からの報告日時の指定を待つのではなく、自分から積極的に報告日時を求め
る行動に移すこと。相手の都合を優先させて、謙虚に報告に行くこと。それができれば、立派な大人だと私は思います。

携帯電話が普及し、いつでもどこでも、相手が電話に出られる時代となりました。だからこそ、「今お話ししてもよろしいですか」と相手の都合をそつと気遣うことのできる大人になつてほしいと願っています。

(四月二十七日 記)